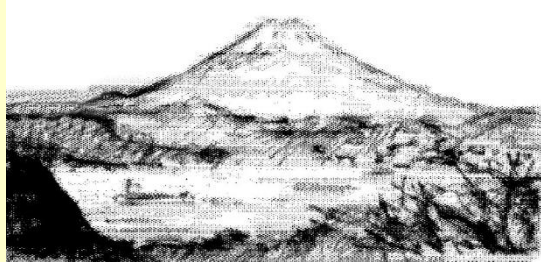


かけはし

昭島市立富士見丘小学校
校長だより No. 1

令和2年5月11日
稲垣 達也



本紙「かけはし」は、学校便りとは別に、校長便りとして、適宜、校長の所感を綴るものです。

事態は深刻ですが… 学校再開まで今日からの3週間で、子供たちの命綱 ドクン ドクン 子供たちは今を生きています

【大人も子供も疲弊】

新型コロナの影響は依然として大きく、「いよいよ学校再開か」という期待も、無惨に砕かれました。先行き不透明な状況が続く中、長期間の臨時休校で生活が一変し、子供たちの心身への影響は計り知れません。また、大人も疲弊しています。そんな中…

【校長室での全員面談から感じたこと】

三者面談後にお立ち寄りいただき、ありがとうございました。この混沌とした状況下でも、「今、子供たちは、とても頑張っている」様子でした。同時に、子供たちのその健気さが、事態の深刻さを物語っているとも感じました。子供たちの困難さを整理すると、

- 1 体系的なカリキュラムによる「学習」が、きわめて困難である。
- 2 子供にとって、その時にしかできない多様な「体験」が希薄している。
- 3 家にいることで、人と「関わる」ことが困難で、孤立している。

いずれも、子供たちの健全な成長にとって欠くことのできない要素です。

このままでは、子育てや教育は崩壊します。今、私たち学校に何ができるのか、子供たちに対して必要な配慮と、自宅での教育にどのような支援ができるか…。

【今、子供たちに迫る危機】

今、私がもっとも危惧しているのは、前述の3「人と関わることの困難さ」です。もちろん、1や2も、学校教育という観点から重要なことですが、なんとか補える部分があります。しかし、「人と関わること = 危ない」という図式は、大きな懸念です。

普通の何気ない人と人との関わり（遊んだり、けんかをしたり、話し合ったり…）は、人の成長に欠くことのできない要素です。その関わりを控えなければならない状況は、ゆっくりと子供たちを追い詰めていっています。

【学校という生きた学び舎の在り方】

学校という学び舎は、先生も児童も、みんなが一堂に会し、対面でコミュニケーションをとることによって、学び合い、教え合い、思考を深め合い、人として成長し合う場です。

『生の関わりこそが学校』です。しかし残念ながら、現状では叶いません。そこで今回、

- 1 各教科の年間指導計画にそった課題（宿題）への取組 →（掲載済み）学校HP参照
- 2 相談日（小グループ学習支援）の設定 →（配布済み）別紙通知文参照
- 3 学校図書館の本の貸出 → 別紙カラーA 4版参照
- 4 がんばっている方への応援のお手紙 → 別紙カラーA 4版参照

を柱とした、休校中の【双方向の学びのあり方】を模索し、取り入れることとしました。この3週間で、学校再開への『生きた学びの機会』につながればと願います。

【子供の置かれている状況】

さて、今、子供たちが置かれている状況を、少し冷静に、捉えてみましょう。3つの事例を挙げますので、「なるほどなあ〜」と共感するものがあるかも知れません。

事例1 主機関（エンジン）が停止している大型船は、すぐには動けない

大型船は、主機関が完全に停止して、冷え切っていると、始動まで数時間かかる場合があります。いわゆる暖機運転に要する時間です。

暖機運転といっても、乗用車のようにエンジンを動かして暖めるのではなく、エンジンを動かすために、エンジン止めたまま、オイルや冷却水をボイラなどで暖めて、ポンプで強制的に循環させて、エンジンを「外から」暖めるのです。

暖気運転が終了すればエンジン始動となるのですが、これも乗用車のように、バッテリーでセルモーターを回してエンジンをかけることはできません。巨大なシリンダーに、圧縮空気を送り込んで、その圧力でピストンを押し下げ、同時に、暖めた重油をそのシリンダーに吹き込むと自然発火して爆発行程に入り、連続してエンジンが始動します。

エンジンは、「すぐに動かない」のではなく、「すぐには動けない」のです。

事例2 人間は、機械（エンジン）のように、簡単には元に戻れない

エンジンを分解して修理し、また組み立てて車体に戻す。その技術を誇って日本人エンジニアが言う。心臓で同じようにはできまい、と／／相手は米国人外科医である。挑発に答えていわく、「あなたたちはエンジンを切ってから作業しているのでしょうか？」（早坂隆著『世界はジョークで出来ている』）／／“技術大国”日本を揶揄やゆした笑話に、いま思う。エンジンのように一度機能を完全に止めてもすぐに再始動させられるなら、どんなに話は簡単だろうか。／／人が家にこもり、商いやものづくりの現場が動きを止める。ウイルス封じに世の中の機能低下は致し方ないにせよ、その命脈が尽きては元も子もなかり。迅速な輸血が欠かせない／／以下略（「よみうり寸評」より）

私たち人間が動くことは、エンジンを動かすことよりも、はるかに難しいのです。

事例3 3月はジャブ 4月はボディーブロー 5月はフックかストレート

ジャブは、ダウンを狙うパンチというよりも相手との距離を測ったり、ダメージを与える、フェイント効果がある、捨てパンチとして使う等の効果があります。

ボディーブローは、ストレートパンチのように派手さはありませんが、じわじわと効き、相手の体力や戦意を奪っていきます。みぞおちに入るとKOにもつながります。

フックは、弧を描くようにして相手の側面から放つパンチのことを言います。肩や腰、膝、つま先などを回転させて、遠心力を利用して打ちます。フックは、相手に大きなダメージを与えるパンチであり、角度によっては一撃必殺のパンチにもなります。

今、私たちは、新型コロナウイルスに対して、なすすべなく防戦一方、逃げっ放しです。「コロナに負けるな」という掛け声だけで、勝てるわけがありません。

【今後の展望】

今後も休校が続くことを想定すると、配慮とか、支援という段階から、「在宅学習」という考え方に切り替えていく可能性があります。しかし、**子供たちが学校でなぜ勉強できるか**という点、**友達と一緒に勉強するから**です。多くの子供たちは1人で勉強することは、困難です。特に低学年の子はきわめて難しいでしょう。悩ましいところです。

今後、休校のさらなる延長の際には、ICT環境の整備など、乗り越えなければならない困難な課題が山積しているものの、オンライン学習の導入など、「未来が突然やってきた」という覚悟と志を持って、鋭意尽力する所存です。よろしくお願い申し上げます。